

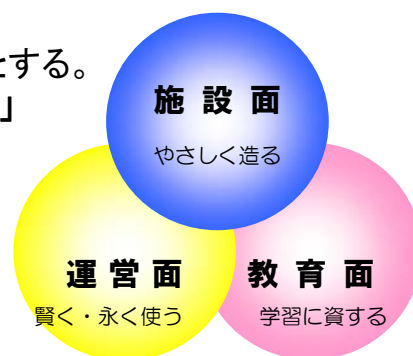
学校におけるエコスクールの取り組み状況について

1. エコスクールとは

「環境を考慮した学校施設(エコスクール)の整備について」
(平成8年3月 環境を考慮した学校施設に関する調査研究協力者会議報告)

・エコスクールに関する基本的な考え方を提示

- 1) 施設面・・・子どもたち等の使用者、地域、地球に対し「やさしく造る」
 - ・学習空間、生活空間として健康で快適である。
 - ・周辺環境と調和している。
 - ・環境への負荷を低減させる設計・建設とする。
- 2) 運営面・・・建物、資源、エネルギーを「賢く・永く使う」
 - ・耐久性やフレキシビリティに配慮する。
 - ・自然エネルギーを有効活用する。
 - ・無駄なく、効率よく使う。
- 3) 教育面・・・施設、原理、仕組みを「学習に資する」
 - ・環境教育にも活用する。



2. これまでの主な取り組み

エコスクールの整備推進

【推進事業】

○エコスクールパイロットモデル事業(平成9年度～)

認定校(累計)1,235校(平成23年5月現在)

【支援ツール等】

- 学校施設の環境配慮方策等に関する調査研究報告書(平成20年2月)※
モデルプランにおける環境対策のシミュレーション結果(平成22年11月)※
- 「CASBEE学校－学校施設における総合的な環境性能評価手法－」(平成22年9月)
- 「学校施設のCO2削減設計検討ツール(FAST)」(平成23年1月)※ など

【環境教育】

- 環境教育に活用できる学校づくり実践事例集(平成23年3月) など

【啓発活動】

- 学校施設における省エネルギー対策について(平成20年3月)
- 学校への太陽光発電導入ガイドブック(平成21年7月)
学校における新エネルギー活用ガイドブック(平成22年3月)
- 自然の恵みを活用したエコスクール(平成23年9月) など

※国立教育政策研究所文教施設研究センター作成

防災機能の強化

- 緊急提言「東日本大震災の被害を踏まえた学校施設の整備について」
(平成23年7月)
 - ・断熱、自然採光(太陽光・太陽熱利用など)や自然風等を活用した設備等は、災害時においても建物の機能や室内環境の維持に貢献。

現在の取組の方向性

- 環境に配慮した耐震化・老朽化対策の推進
 - ・環境に配慮した耐震化・老朽化対策により、エコスクール化を推進。
- 学校を地域の地球温暖化対策の発信拠点に
 - ・環境教育の推進。
(学校施設を教材として活用・省エネ等の効果を「見える化」。)

【学校数】

幼稚園 13,392園(うち公立 5,107校)
 小学校 22,000校(うち公立 21,713校)
 中学校 10,815校(うち公立 9,982校)
 中等教育学校 48校(うち公立 28校)
 高等学校 5,116校(うち公立 3,780校)

(平成22年5月1日現在／平成22年度学校基本調査より)

【公立学校施設の状況】

○保有面積(校舎・屋内運動場・寄宿舍、木造・非木造建物の計)

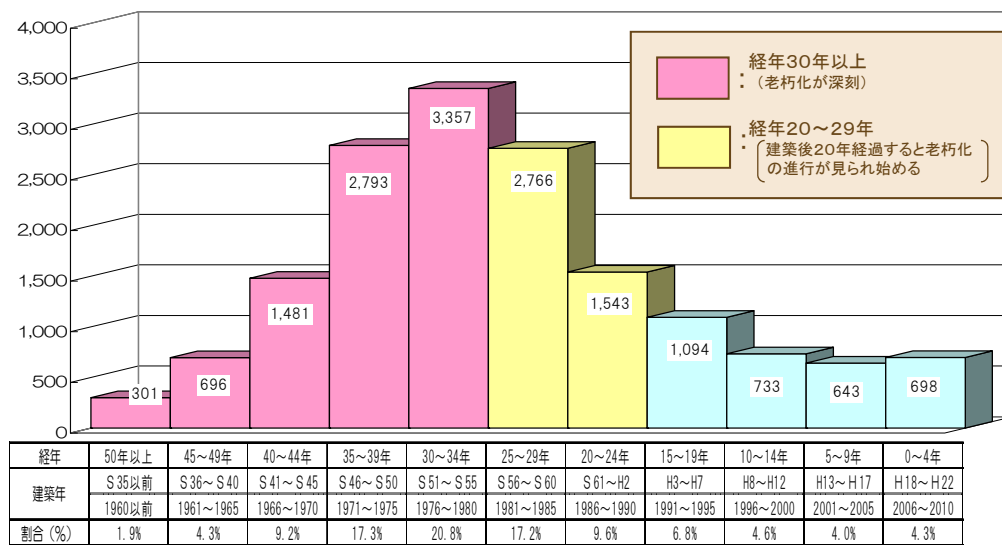
幼稚園 3,464千㎡
 小学校 102,412千㎡
 中学校 60,907千㎡※
 高等学校 45,172千㎡※

※中等教育学校の保有面積を含む

【公立小中学校非木造建物の経年別保有面積】
 <全国(校舎・屋体・寄宿舍の計)>

保有面積(単位:万㎡)

(平成22年5月1日現在)



建築後25年以上の面積が約7割(70.7%)

(平成22年5月1日現在／平成22年度公立学校施設実態調査より)

【整備状況】

○エコスクールパイロット・モデル事業認定校(累計)

1,235校(平成23年5月現在)

H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	計
18	20	20	41	58	88	97	98	101	70	79	104	157	175	109	1,235

○平成21年度に新增改築工事※が完成した公立小中学校の学校数及び面積
 ・・・・518校、約148万㎡

※「エネルギーの使用の合理化に関する法律」による届出の対象となる300㎡以上の建物